

地図帳を見ながら考える 「日本のナンバーワン」

●地図研究家 今尾恵介

日本一高い山は富士山、長い川は信濃川。そのあたりは誰でも知っているが、「日本一低い山」は意見が分かれる。大阪の天保山^{てんぼう}とも言われるが、秋田県の八郎潟干拓地にある「大潟富士」^{おおがた}はマイナス3.776メートルの土地に高さ3.776メートルの人工の山が築かれたので、標高は0メートル。微妙なものである。

いろいろな「日本一」が考えられるものの、ちょっとひねって各都道府県内の最高峰の中で最も低いものを探してみた。正解は千葉県の最高峰、愛宕山^{あた}（408メートル）だ。この類いはインターネットで検索すればすぐ答えは出るが、それではおもしろくない。地図帳をしらみつぶしに調べて答えにたどり着くのは、時間はかかっても目的外の発見（たとえば珍しい地名、川の意外な流れ方、鉄道路線の不思議なカーブなど）があってお勧めだ。

都道府県庁所在地の位置に注目するのも興味深い。特に県庁が端にある場合、そこから遠く離れた住民の不便はいかばかりか。都道府県庁から最も遠い地点のある県を調べてみると、北海道と離島を除いた最長は島根県で、県都の松江市から山

（いまお けいすけ）/1959年生まれ。
出版社勤務を経て地図・地名分野の執筆を始める。著書に「地図帳の深読み」シリーズ（帝国書院）など多数。日本地図センター客員研究員。日本地図学会「地図と地名」専門部会主査。

口県周南市に接した吉賀町^{よし か}の南西端までは172キロメートルもあり、ここが北海道と離島を除けば最長だ。県庁が北寄りにある長野県も、愛知県に接する根羽村^{ね ば}の端までが170キロメートルで第2位。滋賀県庁と京都府庁は都道府県庁間の最短距離（10.5キロメートル）ということもあって、過去には「滋賀県庁を彦根に移すべし」という運動が2度も起きている。

都道府県名の画数を数える人もいて、「県」までを合わせると新潟県と鹿児島県がトップだ。和歌山県は愛媛県とともに3位タイだが、県内には東牟婁郡那智勝浦町八尺鏡野^{ひがし むろ やたがの おおあざ}という、大字レベルの地名まで合わせて12字は最長級だろう。全国の大字の画数までは比較していないけれど、間違いなく迫力はある。

たまたま私は「珍しい地名」の取材でこの集落へ行ったことがあるが、少し足を伸ばして偶然にたどり着いたのが「ぶつぶつ川」、全長13.5メートルという「日本一短い川」とのこと。小さな気泡が出ていることからの命名らしい。いろいろな日本一があるものである。



図1 県内最高峰が最も低い千葉県
令和7年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.64



図2 県庁所在地まで172キロメートルもある島根県吉賀町
令和7年度版『楽しく学ぶ小学生の地図帳』p.39～40